資料7

説明資料

学びの輪、
地域の和。
未来へ繋ぐ
Community School

京都はぐくみ憲章

新京都戦略
～すべての人に「居場所」と「出番」がある
「安心して暮らせる世界都市 京都」の実現～

京都ならではの学校を核とした地域づくりの推進

～「コミュニティ・スクール」から「スクール・コミュニティ」へ～



令和８年１１月４日

京都市教育委員会

京都の教育改革「地域の子どもは地域で育てる」



明治維新

・ 京都市域の人口：３３万人から２２万人に激減

・ **「まちづくりはひとづくりから」**： 先人の覚悟

・ 自治組織「番組」ごとに地域制小学校（番組小学校）を創設
学制発布（明治５年）に先立ち、明治２年に６４の
番組小学校を創設・運営。

・「竈金の精神」：費用は、家の竈の数に応じて市民が出資。

・ 旧市街周辺も明治5年以降続々と開校（郡中小学校）

・ 京都市の教育理念**「地域の子どもは地域で育てる」**
「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」

京都発祥の学校

・ 明治　２年　日本初の学区制小学校**「番組小学校」**

・ 明治　５年　日本初の公立の高等女学校**「新英学級及女紅場」**

・ 明治１１年　日本初の盲・聾学校**「京都盲唖院」**

・ 明治１３年　日本初の公立絵画専門学校**「京都府画学校」**
⇒現「京都市立美術工芸高校」「京都市立芸術大学」

・ 明治１９年　日本初の公立工業高校**「京都染工講習所」**
⇒現「京都市立京都工学院高校」

地域における学校の存在

・ **地域のコミュニティセンターの役割**
町組会所、徴税、戸籍、消防、警察などの施設が併設

・ **元学区は現在も地域共同体として続いている**
区民運動会、区民祭りの開催⇒消防分団、社会福祉協議会、地蔵盆

有済校の太鼓望楼　→



福沢諭吉「京都学校記」

・明治５年、京都の学校を視察した福澤諭吉が大いに感動し、記述。

「（略）民間に学校を設けて人民を教育せんとするは、余輩　積年の宿志なりしに、今京都に来り、はじめて其の實際を見るを得たるは、其の悦び、恰も故郷に帰りて知己朋友に　逢ふが如し。大凡世間の人、この學校を見て感ぜざる者は、報國の心なき人といふべきなり。」



京都学校記　木版本
（京都大学附属図書館所蔵）

京都方式の学校運営協議会（経過・概要）

・　本市では、学校や子どもの課題等を共有し**熟議する「理事会」**とその熟議を踏まえ**地域学校協働活動を企画運営する「企画推進委員会」を一体的に運用する「京都方式」を採用**。法制化以前から全国に先駆けて学校運営協議会を設置。

・　保護者や地域等の方々に参画いただき、子どもたちのために行動する「学校の応援団」として教育活動を支援。**学校と地域が協働した京都ならではの市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を推進**してきた。

設置の経過

◆「新しいタイプの学校運営の在り方」実践研究（平成14年度～）

地域との連携の下、「学校裁量権の拡大」や「地域の学校運営への積極的な参画」などをテーマとした実践研究

・文部科学省指定	京都市立御所南小学校	（平成14年度～）
・京都市教育委員会指定	京都市立高倉小学校	（平成14年度～）
	京都市立京都御池中学校	（平成15年度～）

●学校運営協議会の法制化（平成16年度～）

◆全ての本市立小学校（166校）に学校運営協議会の設置が完了（平成26年度～）

●学校運営協議会設置の努力義務化（平成29年度～）

◆全ての本市立学校園（256校園）に学校運営協議会の設置が完了（令和6年度～）

取組例

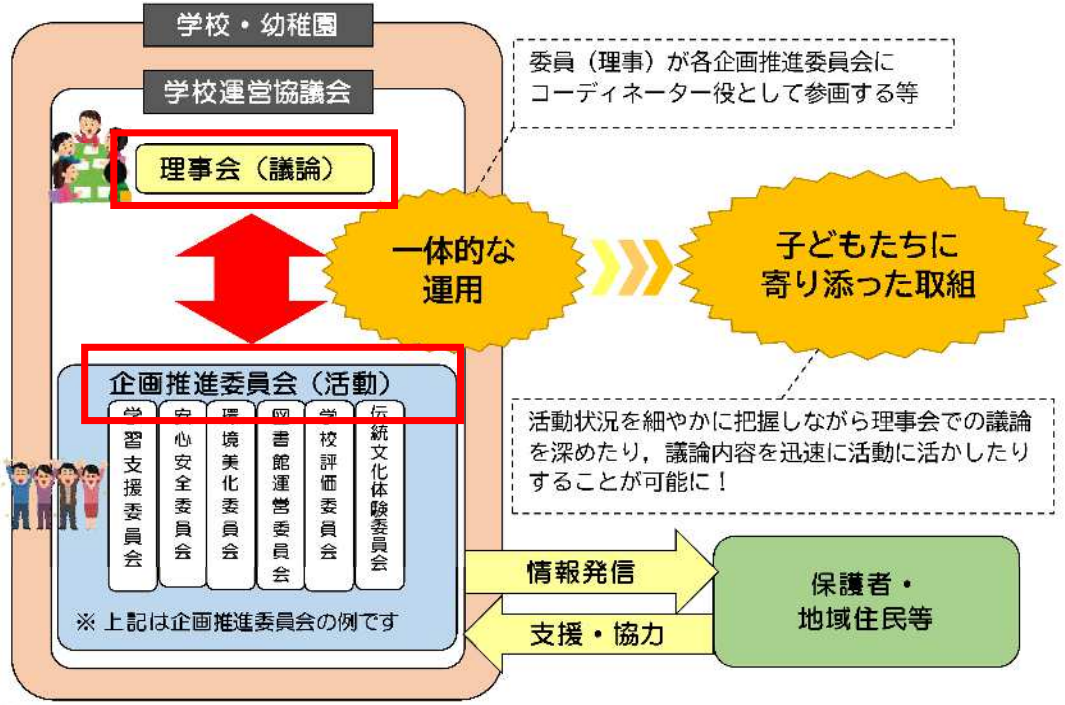
〇社会に開かれた教育課程の実現

・授業で地域の方にゲストティーチャーとして、ものづくりを教えていただく
・地域や区役所と連携し、地域課題の解決に向けて提言や取組を行う など

〇子どもを真ん中にした活動に向けて（教職員の働き方改革）

・地域の方による登下校時の見守り活動、夏休み期間中の花壇への水やり など
→教職員が子どもと向き合う時間を確保！

本市独自の運用



これまでの主な成果・課題

成果

「学校の応援団」として教育活動を支援

- 多様な主体の参画による教育活動の充実
- 子どもたちの安心安全の確保
- 地域・保護者の学校への理解促進



課題

地域コミュニティの課題が深刻化

- 地域人材の固定化・高齢化
- 活動の形骸化
- 地域・学校双方の負担感



京都ならではの学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）への挑戦

前 提

学校教育の場



多世代がつながる場

まち全体で未来を創る「公共の場（パブリック・テラス）」

☞ そのキーワードは、**「学校の中に、まちをつくる。」**



子どもも大人も活躍する場

地域コミュニティ活性化の場

コミュニティ・スクールの今後の展望「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ」

目指す姿 『学校の中に、まちをつくる』

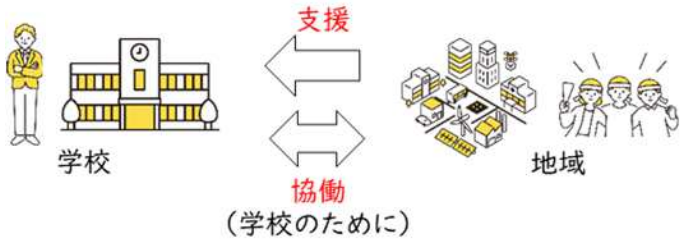
◎ 学校施設の利活用を進め、学校を子どもから大人まで一人ひとりが幸福や生きがいを感じられる多彩な活動の場として再構築。
◎ 学校施設を拠点とした多様な主体による豊かな地域活動を通して、 地域に活力を生み、その創出された活力を教育活動の充実に繋げるという、
「子どもの健全育成」と「地域活性化」の好循環を創出する

例えば・・・

- 放課後や休日の学校施設の利活用を推進し、学校で多様な人々による交じり合いが行われるなど地域活動が豊かになる
- 「学藝のまち」という都市特性を活かし、秀でた能力を有する地域人材を発掘し、学校・社会教育との接続を図る（京都学藝衆構想）
- 学校運営協議会の場で、地域の暮らしや持続可能なまちづくりなど、子どもや学校にも関わる地域の課題解決に向けた熟議をする
- 学校教育の一環として、地域の課題を題材とした探究的な学習を行い、子どもたちがより地域に関心を持って地域活動に参画する

など、学校を舞台に、地域活動が豊かになり、地域が活性化する。その結果、教育活動に多様な地域人材が参画するなど学校教育の充実に繋がる

コミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）



スクール・コミュニティ（学校を核とした地域づくり）



スクール・コミュニティに向けた学校・地域・保護者の適切な役割分担



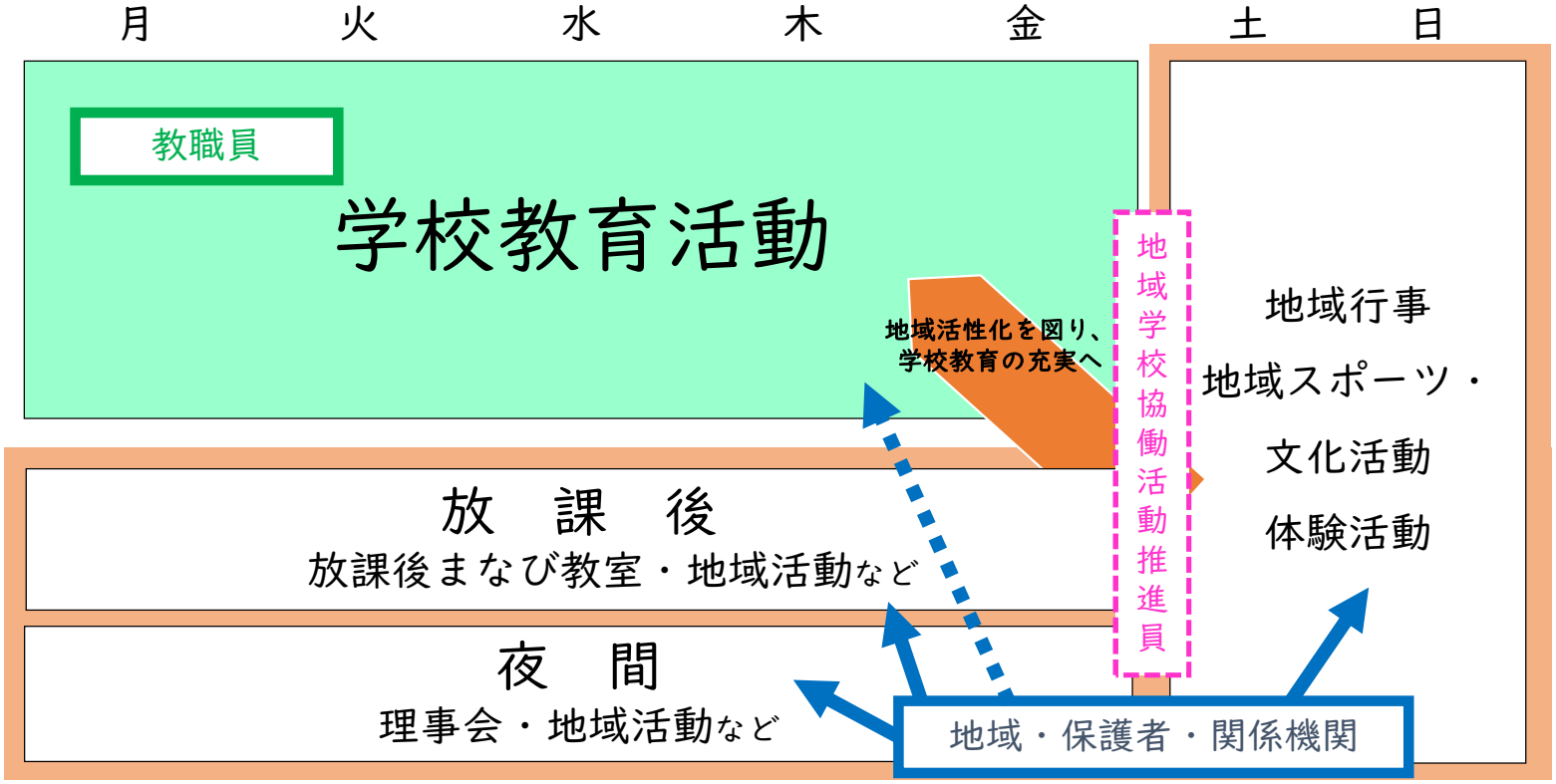
〇コミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）

・学校は、一義的には学校教育の場であり、**教職員が責任を持って充実した学校教育活動を行う。**

・**放課後や休日**は、「地域の子どもは地域が育む」という理念の下、**地域・保護者が学校と共通の目標で子どもの学びや育ちを支援する。**

〇スクール・コミュニティ（学校を核とした地域づくり） **Point：教職員の「業務」と「責任」から切り離すための環境整備が条件!!**

・**学校施設を拠点に、**多様な主体による豊かな地域活動を通して、**学校に繋がりを持つ人々が増加**し、これまで地域という枠組みを超えてまち全体に拡大することで、**地域コミュニティの活性化を図るとともに、その新たに創出された地域の活力を子どもの健全育成に繋げる。**



←活用の充実を図る部分

スクール・コミュニティに向けた「仮説」

STEP①：地域活動が豊かになる

学校施設を拠点に放課後・休日等の地域活動が充実し、新たな交流を創出。

▼

STEP②：地域が活性化する

これまで以上の多様な人々による交じり合いを通して、地域に活力が生まれ、持続可能なコミュニティへと進化する。

▼

STEP③：学校の関係人口が増加

学校との繋がりを持つ人々が増加し、これまでになかった多様な人々による学校教育等への支援の輪が広がる

▼

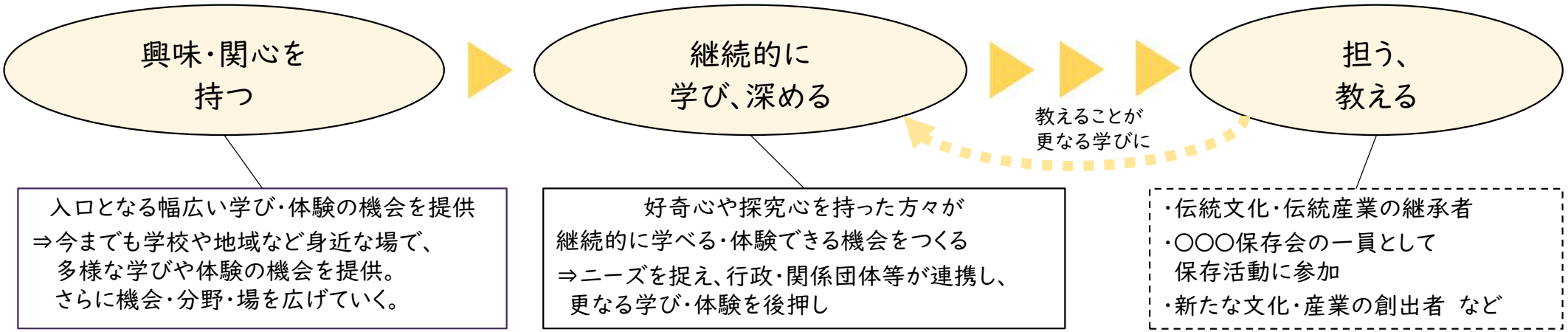
STEP④：教育活動が充実する

学藝衆など多様な人々がより教育活動等に参画いただくことによって社会に開かれた教育課程の実現に繋がる。

「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ「京都学藝衆構想」



○ 市役所・区役所が「結節点」となり、学藝を取り巻く「人」のネットワークにより、学校、区役所、公園、 図書館などの公共空間や、神社仏閣などの民間施設といった「場」において、幅広い世代が京都の多彩な価値・魅力に触れ、共に学び、交流する「夢中になれる学び合い」の機会を創出。好奇心・探究心を醸成し、継続的な学びにつなげ、次代の担い手を育む。



⇒ 失われる危機すら感じられる京都の価値・魅力の次世代への継承・新たな魅力発信、子どもたちから年配の方々まで世代を超えた交流やコミュニティ活性化につなげるとともに、京都への愛着を醸成し、深めていただき、**京都市民や国内外の人々から愛される「唯一無二のまち」を目指す。**

「京都学藝衆」とは

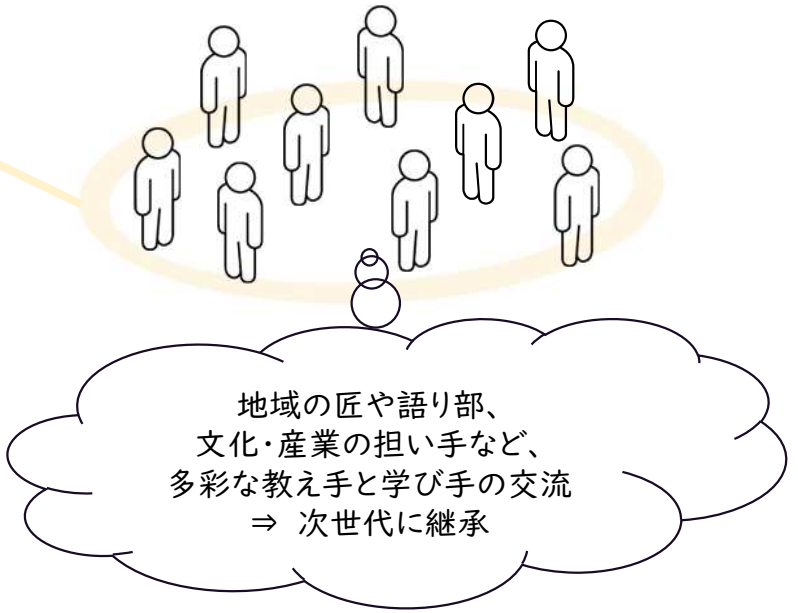
○ 京都は、人と人が、趣味、習い事、商い、祭事などを介して、ゆるやかでひらかれたつながりを紡ぎ続けるとともに、互いに支え合って歴史と文化を紡いできたまち。

○ 「京都学藝衆」とは、このひらかれたまち柄のもと、多様な技芸や技能、見識、経験が磁力となり人々が惹きつけられ、学び、学び合うことで、京都の価値・魅力を次の世代につなげていく方々の連なり
（＝広く市民が参加し、学び合い教え合う、幅広い分野の「テーマコミュニティ」）

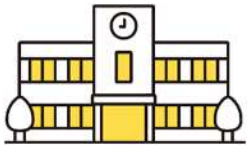
（例） 狭義の学問・芸術・文化に限らない幅広い分野の「学藝」

伝統文化（茶道、華道など）	アート（音楽、絵画、彫刻など）	伝統芸能 伝統工芸	料理 菓子
地域文化（郷土史、祭りなど）	研究 科学	起業 経営	建築 造園
思想、哲学 文学	医療、健康 福祉	農業 林業	スポーツ 武道

…



令和８年度の京都市教育委員会の主な取組



学校施設をまちにひらく
（ハード面）

×



多様な主体による活動の充実
（ソフト面）

ICT導入による学校施設の管理体制整備

学校施設へのスマートロックや予約管理システムの導入研究





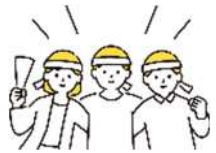
「地域・学校の架け橋」地域学校協働活動推進員

一体的に推進

地域学校協働活動等の充実
×
学校の働き方改革
×
地域住民の居場所と出番づくり
（本市独自の取組）

学校運営協議会の推進に向けた「研究指定」の充実

学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）の推進に向けて先導的に取り組む学校園に対して、新たに研究指定を創設



大学のまち・京都の都市特性を活かした「CSユースサポーター」試行的導入（R8～）



・　学校運営協議会理事の固定化や高齢化が課題として挙げられる中、「大学のまち・京都」の都市特性を活かし、**学生をはじめとした若年世代の参画を促進するため、令和8年度から新たに本市独自で「CSユースサポーター」を試行的導入**します。
・　CSユースサポーターは、理事の世代交代や取組の活性化など、各校の状況に応じて、**校長の判断で委嘱可能。**
・　**校長・理事長の要請に基づき、必要に応じて学校運営協議会にオブザーバとして参画いただいたり、地域学校協働活動の企画・運営に参画いただいたりするなど、**学校運営に新たな視点を取り入れるとともに、**将来的な委員登用の可能性も視野に**、委員の固定化を防ぎ、取組の活性化を促すことを目的としています。



背景

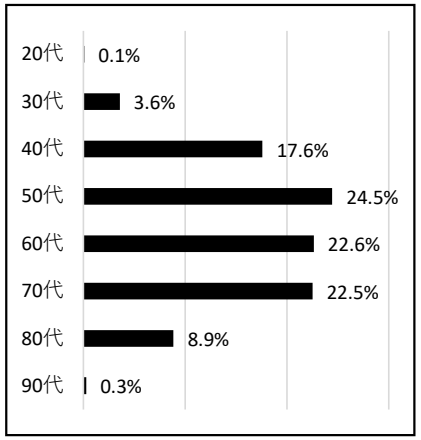
① 学校アンケート結果

毎年、学校現場からは、学校運営協議会の「理事の固定化・高齢化」が課題（R6アンケート結果：65.4%）として指摘されており、議論や活動に新たな視点が入りにくく、その結果、取組の形骸化に繋がる懸念が示されています。

② 学校現場のニーズ

近隣に大学がある学校や卒業生との交流・接点がある学校を中心に、若年世代へ学校運営協議会等への参画促進し、議論や取組の活性化を図りたい旨の声がある。

<全校種>



<募集チラシ>



③ 学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会の意見

本市の附属機関である当該委員会より、学校運営協議会の活性化に向けて、学生をはじめとした若年世代の参画を促進するための仕組みの構築に関する助言をいただいております。

④ 文部科学省の方針

文部科学省において、R8年度の重点方針として、学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化や魅力発信等に向け、新たに「若年世代の参画促進」に向けた取組を進める方針が示されており、全国各地で啓発が実施されています。